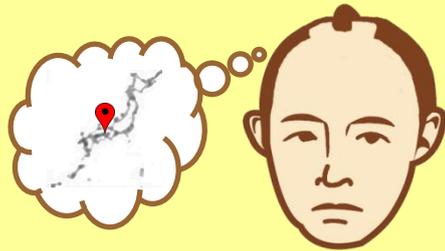


出会った人
その1 ただのり 森忠徳（播磨国赤穂藩 10代藩主）

4月29日（初日）江戸・品川間の尾張町

屋敷を出て間もなく、尾張町（現在の東京都中央区銀座5・6丁目）で森殿と出会った。森殿も、参勤交代で帰国されるところだそうだ。日光東照宮に参詣されてから、東山道経由で赤穂へ向かわれるらしい。

赤穂か・・・あちらも長旅だな。



出会った人
その2 まさかた 井上正健（常陸国下妻藩 10代藩主）

4月30日（2日目）大磯・小田原間の国府津

酒匂川を越えてしばらく、国府津にやってきた。このあたりは、もう田植えがすすんでいるのか。

おや、あれは・・・二条在番*の正健殿ではないか。

ここを過ぎれば、次は小田原だ。

*二条城を警衛するための役職です。大番が任ぜられ、例年4月、交替のために江戸・京都間を行き来しました。当時、正健は大番頭でした。大番頭は、二条城において城代をしのぐ強い権限を有していました。

出会った人
その3

よしちか
毛利慶親（周防国・長門国長州藩 13 代藩主）

4月30日（2日目）小田原

夜の六ツ時（午後6時）前、本日の宿所、小田原に着いた。小田原での宿はいつも決まっておる。本陣の久保田家だ。でも、今日は毛利殿と宿所が重なってしまっていてなあ。久保田家はいっぱいなのだ。

そういうわけで、今日の宿は脇本陣の清水家になった。夕食を終えて、間もなく床に就く。

出会った人
その4

かつよし
松平勝善（伊予国松山藩 12 代藩主）

5月3日（5日目）蒲原・由比間の町屋原

朝の六ツ時（午前6時）、駕籠に乗って宿所の蒲原を出る。町屋原というところで、勝善殿と出会った。

（春嶽は、はじめ松山藩主の松平勝善の養子になるはずでした。それが、福井藩主の松平^{なりさわ}齊善が若年で亡くなってしまったため、急遽、末期養子として福井藩に養子入りすることになりました。

ここでは福井藩主と松山藩主として出会っていますが、もしかすると、2人は親子になっていたかもしれません）